

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 6 月 23 日現在

機関番号：14601

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18H00978

研究課題名(和文) 子ども・若者支援における専門性の構築 「社会教育的支援」の比較研究を踏まえて

研究課題名(英文) Construction of Professionalism in the field of Child and Youth Services -- on the basis of comparative Studies of "Social Pedagogical Support" --

研究代表者

生田 周二 (IKUTA, Shuji)

奈良教育大学・次世代教員養成センター・特任教授

研究者番号：00212746

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 14,010,000円

研究成果の概要(和文)：本研究期間は、研究プロジェクトの第2ステップ「研究課題の具体化」と位置づけ、4領域(原理・比較、支援論・方法論、子ども、若者)に分かれてユニバーサル支援、ターゲット支援の両面から研究を進め、試行的な教材等を作成した。

原理・比較研究では日独シンポジウム(2021年)を開催し、「社会教育的支援」と専門性のあり方を深めた。支援論・方法論研究では『子ども・若者支援専門職養成ガイドブック 共通基礎』を作成した。子ども領域では「子ども支援の専門性と力量形成の社会教育的側面 子ども支援施設・団体調査報告」を執筆し、若者領域ではこれまでの研修活動を踏まえ『ユースワーカー・ハンドブック2』などを作成した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

研究の意義は、日本の子ども・若者支援の「四つの欠損」(領域、専門性、学問、権利性)状況の分析、子ども・若者支援の三つのルーツ(青少年教育、青少年対策、青少年福祉)を踏まえた専門的能力(ナレッジ、スキル、マインド、センス)の枠組みの分析・提示である。

また、社会教育的支援の基礎概念として、子どもの権利と自尊感情を踏まえた対話と自立の各側面での対応の相関を抽出し、研修教材などの作成・整理の試みにつなげている。明らかになった問題点は、専門性を形成する「体系的な理論」とそれに基づく「教育・訓練」のあり方が「支援の重層性」(多面的な活動分野の関係性)の把握と分節化なしには構築し得ないという点である。

研究成果の概要(英文)：Our research task is “the concretization of professionalism”. Our project organized 4 research fields (Principles and Comparative Research, Support Theory and Methodology Research, Children Support Research, Youth Support Research), analyzed children- and youth services from both points of universal and target services, and made some trial training materials.

The Principles and Comparative Research field deepened the framework about “social pedagogical support” and its professionalism by holding the Japanese and German Symposium. The Support Theory and Methodology Research field made “Training Guidebook for Professions of Children- and Youth Services”. The Children Support Research field wrote the report about the facilities and NPOs of children support: ‘social pedagogical support in the profession and capacity building of the children support workers’. The Youth Support Research field made “Youth Worker Handbook 2” based on various training program performances.

研究分野：社会教育

キーワード：子ども・若者支援 社会教育的支援 専門職養成・研修 専門性 自立支援

### 1. 研究開始当初の背景

日本において子ども・若者支援の必要性が意識化されだしたのは2000年に入ってからであり、それは従来の青少年教育や青少年対策が子ども・若者が直面している課題に対応できる仕組みと構造になっていなかったからでもある。つまり、子ども・若者支援のパラダイム不在である。

その中で、子ども・若者支援において、教育、文化、福祉、就労などの多様な側面が構造化されていない現実、自立が経済的自立に一面化される傾向にある現実、既存の専門的資格(教員、保育士、社会福祉士、公認心理師など)を持つ支援者によって展開されつつも子ども・若者の課題に沿った支援となっているのかどうか不安を抱える現実、特に支援者の専門性が明確でない現実、そのため支援する側の「子ども・若者支援の共通」の枠組みが見えにくい現実、児童福祉法が適用される18歳までとそれ以降の若者への支援の根拠法が不十分なために存在する大きな断絶、これらの点がこの間の研究で明らかになってきた。研究成果は、日本社会教育学会編(2017)『子ども・若者支援と社会教育』(東洋館出版社：編集委員長・生田)にまとめられた。

以上の整理から、日本の子ども・若者支援には、従事者の専門性に関連して総じて次の「四つの欠損」を指摘することができる。

家庭、学校と並ぶ、30歳頃までの子ども・若者期を支援する包括的な“第三の領域”の欠損  
支援する「専門職」の欠損

それを支える「学問」領域の欠損

子ども・若者支援の権利性の欠損

以上の課題を総合的に検討するために、本研究プロジェクト「子ども・若者支援における専門性の構築」を展開した。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、子ども・若者支援(子ども・若者の家庭・学校から社会への移行ならびに自立支援)の包括的な枠組みを「第三の領域」(図1)と措定し、その領域の支援者の専門的能力の養成・研修システムの構築にある。その際、「社会教育的支援(Social Pedagogical Support)」概念を作業仮説とする。この概念は、欧州のSocial Pedagogyなどとも関連し、支援者の支援理解の観点を次の通り要請する：(1)支援の構造把握、(2)子ども・若者の自立理解、(3)自立支援の方法論、(4)事例を踏まえた省察的理解。これらの観点が支援者に求めるのは、子ども・若者の自立の諸側面を踏まえ、課題の焦点化(ミクロ)ならびに連携の見通し(メゾ)さらに地域的な包括的視点(マクロ)の各レベルでの支援の諸相を把握する専門的能力の形成である。その養成・研修のためには、上記の支援理解の4つの観点、ならびに専門的能力の4要素(マインド、ナレッジ、スキル、センス)形成に資するカリキュラム・教材開発が求められる。以上を通して、本研究は、包括的な自立支援と専門性養成・研修の枠組みに関する総合的な提案を目指す。

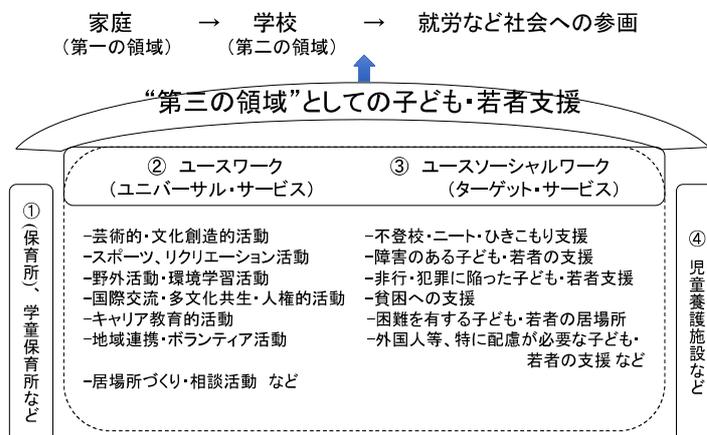


図1 “第三の領域”としての子ども・若者支援の枠組み

### 3. 研究の方法

本研究は、下記の4領域から取り組んだ。

#### I 原理・比較研究領域：社会教育的支援研究……social pedagogy、Sozialpädagogik(独)

子ども・若者支援の“第三の領域”と社会教育的支援の観点の構築である。国際調査・シンポジウムを通じて比較研究をしつつ、広範な層を対象としたユニバーサルな支援を基盤に、特別な必要を有する人への支援の観点(ユニバーサルを踏まえたターゲット・サービス)すなわち「包括的支援」の観点の構築をめざす。

#### II 支援論・方法論研究領域：支援の専門性の臨床研究

研修プログラム実施、居場所づくりなどを通して、子ども・若者の発達を踏まえた「自立の5側面」からの支援の方法論と実践臨床研究を行う。自立を構造的に捉えつつ支援の実践と実践分析(ケース会議など)を行い往還的に研究する。

#### III 子ども領域：養成・研修システム、教材開発研究

#### IV 若者領域：養成・研修システム、教材開発研究

子ども(主に小学生まで)領域と若者領域は、「社会教育的支援」の観点の整理、ならびにこれまで関係団体と共に検討してきた支援観「支援の視点と三層構造」と「専門的能力の4要素」を深め、試行・検証過程を経てプログラム化・教材化につなげる。

#### 4. 研究成果

私たちの研究の問題関心は、主に次の点にある。

子ども・若者の人格形成・成長発達にとって家庭・学校とは異なる“第三の領域”(図1)としてどのような仕組みが必要なのかを検討する。

その際に自立における文化的側面の重要性を踏まえ、ターゲット支援だけではなくユニバーサルな側面をきちんと位置づけることを提案する。

子ども・若者支援をめぐる問題点を「四つの欠損」として指摘し総合的に考察する。

領域として未確立なために、特に支援者の専門性の探究、ならびに活動・業務の言語化により養成・研修の枠組みの確立に資するものにしようとする。

上記の点を踏まえ、「3. 研究の方法」で示した4つの領域に分かれて研究してきた。

##### (1) “第三の領域”と「社会教育的支援」概念 ドイツにおける議論を踏まえて

ドイツの子ども・若者支援は、法的にはドイツ国青少年福祉法(1922年)を起源とし、戦後、青少年福祉法(1961年)を経て、1990年制定の子ども・若者支援法(Kinder- und Jugendhilfegesetz (KJHG))により子ども・若者支援(Jugendhilfe)として位置づけられている。子ども・若者支援法第1条では、子ども・若者支援が27歳未満の子ども・若者の権利であると明記されている。

ドイツの子ども・若者支援の領域は、家庭・学校とは異なる独自の“第三の領域(dritte Institution)”(Schilling2005: 183)としての役割を有している。ドイツ子ども・若者支援の場合、“第三の領域”としての法的・制度的な位置づけが明確であり、その学問体系が「社会教育」という形で構築されてきている。近年は、子ども・若者からより広く総合社会活動の学としての広がりが見られ、それに伴う整理が追究されているところである(生田2021:第2章)。

日本の子ども・若者支援に存在する「四つの欠損」(支援領域の枠組み、専門職、学問領域、若者支援の法的基礎が未整備)がある中で、ドイツの「社会教育」の先行事例に学びつつ、次の点で“第三の領域”ならびに「社会教育的支援」の観点を踏まえることが重要となる。

- A. 子ども・若者支援の総体的・構造的把握の視点……家庭・学校から社会への移行支援の“第三の領域”として、社会福祉、心理学、職業訓練などの領域と関連づけた構造的把握
- B. 子ども・若者理解の視点……個人の自主性、自発性に基づく自由で、自立を志向する学びや活動を重視する自発性理論を基本的価値とする自己・相互学習の視点
- C. 支援の方法論としての関係性の視点……「個人の個別的ニーズ」に応えつつ、子ども・若者問題を個人の問題に矮小化せず集团的・地域的志向性を持った視点
- D. 専門性理解の視点……学習支援、生活支援、就労支援など特定の分野に偏ることなく、支援をする上での「共通基礎」として備えるべき知識・技術・価値・センスの各要素の「専門的能力」の明確化と関連づけの視点
- E. 支援についての批判的視点……支援には、「統制的・教化的傾向性(思想善導など) 社会情勢への「適応」的・統合的傾向性(就労重視、適性重視など)の矛盾・葛藤があるという理解・把握を踏まえた批判的・省察的視点

ドイツ「社会教育」の分析を踏まえつつ、以上の点をさらに検討することが求められる。

##### (2) 子ども・若者育成支援推進法以降の動向 子ども・若者政策の三つの源流を踏まえて

日本では、学校教育外の子ども・若者支援において、次の三つの施策の流れがある：

- ・ 子ども会・青年団などの育成、学校外教育施設の拡充などの青少年教育(文部科学省)
- ・ 非行対策・健全育成の流れをくむ青少年対策(内閣府)
- ・ 勤労青少年ホーム、児童館・学童保育の流れをくむ勤労青少年・福祉的対策(厚生労働省)

これらは近年、2003年に政府に内閣府、文科省、厚労省、経産省合同の「若者自立・挑戦戦略会議」の設置、その後さらに「子ども・若者育成支援推進法」(2009年)、「子ども・若者ビジョン」(2010年)、「子どもの貧困対策の推進に関する法(子どもの貧困対策法)」(2013年)、「子供の貧困対策に関する大綱について」(2014年)などにみられるように、内閣府などを中心にした「子ども・若者支援」に収斂する傾向がみられる。

その中で、「子ども・若者育成支援推進法」(2009年)により「置くよう努める」(法第19条)とされている、地域自治体の総合調整機関である「子ども・若者支援地域協議会」の設置状況は特に身近な市町村ではかばかしくない：都道府県(設置数42/全体47:以下同) 政令指定都市(13/20) その他市町村(73/1704+23東京都特別区) 計128地域(2021年3月31日現在)。背景には、三つの施策の流れがある行政内部においてどこが主担当となるのかの調整が進まない実情、構成員が類似する他の協議会の存在(要保護児童対策地域協議会など)等の事情がある(参照：竹中2016;宮池2019)。

以上から、より総合的・包括的な視点の必要性があり、“第三の領域”はその方向性での問題提起である。

##### (3) 子ども・若者支援領域の言語化をめざして 専門性の欠損への対抗

青少年に関わる専門職養成の歴史の概要 青少年の専門的指導者養成の流れについて、水野篤夫・遠藤保子(2007)、宮崎隆志(2008)、水野篤夫(2009)、川野麻衣子・松田考・南出吉祥(2016:「子ども・若者支援専門職・資格の現状と課題」日本社会教育学会六月集会プロジェクト研究報告資料)な

どの先行研究で整理されている。水野・遠藤(2007: 96)は、これらの養成・研修をレベル別に「専門職養成」、「支援職員のレベルアップ」、「ボランティア養成」の三層構造として表している。しかし、専門性の内実に向ける研究は進んでいるとはいえなかった。また、これらの先駆的な養成・研修の試みも一過性で終わり、全国的な展開を見せるには至っていない。

そのため、水野(2009: 158)は「そうした取り組みがありながら必ずしも『ユースワーカー』という名称とその役割についての社会的な認知は広がっていません。」と総括し、その理由として下記の点を指摘する。

ユースワーカーが、社会的な課題解決に不可欠の役割を果たしていると思われていない。

格別の知識と技術的な専門性を有していると思われていない。

養成プログラムが適切かつ高度なものが評価が未形成である。

採用や活動の選択、行動についての必要な自律性をもたず、そのための制度的基盤が弱い。

「ユースワーカー集団」が十分成立していないことと、資格取得後の研修の機会の保証がない。

以上の問題点は、専門性を考える際の重要点と関わっている。

専門職の条件と専門性 専門職の条件として必要なものは下記の項目である(日本社会福祉士会編 2009: iii; 日和 2016; Müller 2011:957-958)。

- |                                  |                                |
|----------------------------------|--------------------------------|
| 1) 体系的な理論 systematic theory      | 2) 一定の教育と訓練                    |
| 3) 専門職的権威 professional authority | 4) 倫理綱領 ethical codes          |
| 5) 社会的承認 community sanction      | 6) 専門職的文化 professional culture |

水野が指摘する養成・研修をめぐる問題点は、上記 1)から 6)にあげられている専門職として備えるべき「体系的な理論」、それに基づく「教育・訓練」とそれによる「権威」、専門職が大切にすべき「倫理綱領」「行動指針」、それらの実践を通じて得られる「社会的承認」、専門職集団としての文化を維持・発展させる「組織」の存在などの点で不十分であったということである。

次に、こうした支援者の専門性は、「子ども・若者支援を展開する体系的な理論の枠組みを持ち、一定の教育と訓練を必要とする」ものだと考えられる。その専門性を形づくる専門的能力として次の4つの要素がある。なお、一般的にはナレッジ、スキル、マインドの3つを指摘することが多い(岩間 2016 ほか)。

- ・ナレッジ(知識): 社会制度や資源、子ども・若者に関わる問題についての知識
- ・スキル(技能): 課題に向かうための技能.....個人・グループ・システムに働きかける
- ・マインド(価値観): 活動を支え、方向づける、基盤となる理念・思想・哲学
- ・センス(感受性): 社会的ニーズを発見するなど、状況の要請に対する必要な感受性

以上の点に自覚的に取り組もうとする動きを作るのが本研究プロジェクトである。

#### (4) 専門性探究をめぐる取り組み 本研究プロジェクト関連

上記の研修や資格等の設定と関連しつつ、専門職の条件に記載した「体系的な理論」、それに基づく「教育・訓練」、大切にすべき「倫理綱領」、専門職集団としての文化を維持・発展させる「組織」に意識的に取り組んでいるのが、本研究プロジェクトが関与する以下の事例である。

ユースワーカー協議会発足.....2019年7月1日

ユースワーカー全国協議会(準備会)編(2019)『ユースワークって何だろう!? ~12の事例から考える~』(子ども・若者支援専門職養成研究所)発行

ユースワーカー協議会編(2022)『ユースワーカー・ハンドブック2 ユースワーカー基礎編』(子ども・若者支援専門職養成研究所)

子ども・若者支援専門職養成研究所編(2020)『子ども・若者支援専門職養成ガイドブック 共通基礎』(サンプル版)発行ならびに改訂版(2022)発行(同研究所ホームページで公開 <https://ipty2014.wixsite.com/mysite/2-1>)

井上大樹・川野麻衣子・深作拓郎(2021)「子ども支援の専門性と力量形成の社会教育的側面 子ども支援施設・団体調査報告」『札幌学院大学学術機関リポジトリ』

専門職の条件との関連で整理すると、は、専門職集団としての文化を維持・発展させる「組織」の確立を志向している。は、ユースワークを中心とする「倫理綱領」「体系的な理論」、それに基づく「教育・訓練」のためのワークブック、ハンドブックの作成である。は、「体系的な理論」を踏まえた「共通基礎」の内容、それに基づく「教育・訓練」のためのテキストづくりである。は、子ども領域における「倫理綱領」「体系的な理論」とそれを踏まえた「教育・訓練」の道筋、あり方を検討する途上の研究成果である。

以上の取り組みを通じて、水野(2009: 158)が5点にわたって指摘した問題点、社会的承認の低さ、知識・技術の体系性の弱さ、養成プログラムの妥当性、行動指針の不明確さ、組織的未確立を克服しようと動き出している。

表1 ユースワークの価値観と目標観(2019.1)(抄)

	基本的な価値観	ワークの目標
1	個々の若者の固有性を価値あるものとしてとらえる	個々の若者の持つ力を尊重しながら、それが引き出されるようにする
2	信頼関係づくりから始める	若者との間に信頼と共感という基盤を形成する
3	若者の自己決定を尊重する	若者の選択肢を増やし、自己決定の能力を培う

4	他者との関わりと、集団の中での学びのプロセスを大事なものとす	若者が社会の中で生きていく力を身につけていけるようにする
5	すべての若者への機会と場を保障できるようにする	すべての若者への学びと成長のための機会と場を保障する
6	若者が所属するコミュニティや社会全体の正規の一員として位置づけられる	若者を受け容れるコミュニティをつくる

表2 「ナレッジ」と「スキル」の要素(試案より)(抄)

コンピテンシー	要素	
	A. 青少年育成的(青少年活動など)	B. 青少年支援的(就労支援、ニート・ひきこもり・不登校支援など)
子ども・若者支援の課題把握	I-1 子ども・若者をめぐる歴史・子どもの権利・法・文化・取り組みなどの概要の理解	
	I-2 子ども・若者支援の基礎概念(自尊感情、対話、居場所、自立)の理解と教育的・福祉的対応の理解	
	I-3 子ども・若者支援をめぐる現代的課題(不登校、ひきこもり、発達障害、児童虐待、貧困など)の理解	
	I-4 海外の動向を踏まえた、“第三の領域”としての子ども・若者支援の理解	
	I-5 子ども・若者支援の福祉的側面の理解	
支援の方法	I-A-1 青少年活動の組織・計画	I-B-1 子ども・若者支援における医療的支援 発達障害などとその支援
	II-1 子ども・若者と出会い、向き合う……居場所と対話・自尊感情に関する理解を踏まえた対応	
	II-2 集団・コミュニティ形成を志向した支援……主体性を尊重する支援方法	
論の把握・活用	II-3 リフレクションの展開、ケース記録などの作成・整理	
	II-A-1 子ども・若者の学びや活動への支援	II-B-1 心理アセスメント、カウンセリング、心理療法(サイコセラピー)の技法
	II-A-2 リーダー論、ジュニアリーダー論	II-B-2 困難を抱える若者に対する自立までの継続的な支援 II-B-3 家族支援、ペアレント・トレーニング、オープンダイアログ
社会性・寛容性・連携力	III-1 関係者、支援者や学校などの機関との連携やネットワークの構築・活用……子ども・若者支援地域協議会など	
	III-2 児童虐待等の早期発見、ならびに児童相談所等の関係機関と連携した対応	
	III-3 事例検討会の実際	
	III-4 事例研究「NPO 法人いまから」の実践に学ぶ 支援者チームの形成と研修	
マネージメント・運営力	IV-1 総合調整と人材育成、ノウハウ蓄積・共有	
	IV-2 事業の公共性の維持	
	IV-3 運営基盤と経営能力	

(5) 今後の課題

今後の課題は、子ども・若者支援の三つの源流を踏まえつつ、“第三の領域”として統合し、権利性のある領域として合意形成していく方が問われる。その際、ドイツなどとの比較研究を通して得られた知見である「支援の重層性」概念を踏まえることが重要となる。それは支援対象と担当機関等の多様性を踏まえ、(1)支援の枠組み、(2)支援方法、(3)連携・協働の3側面での重層性である。支援を重層的に捉え相互に関連づけることで、一人一人の受容から、関係性・つながり・参加の広がり、コミュニティづくりへと可能性が分岐する支援の諸相を構造的に把握できる。これらを踏まえることが「体系的な理論」と「教育・訓練」に基づく専門性の形成とカリキュラム・教材開発に寄与する。研究プロジェクトの第3ステップの課題としたい。

<引用文献>

生田周二(2021)『子ども・若者支援におけるパラダイムデザイン―“第三の領域”と専門性の構築に向けて―』かもがわ出版

岩間伸之(2014)『支援困難事例と向き合う―18事例から学ぶ援助の視点と方法―』ミネルヴァ書房

竹中哲夫(2016)『子ども・若者支援地域協議会のミッションと展望』かもがわ出版

日本社会福祉士会編(2009)『新社会福祉援助の共通基盤(上)』(第2版)中央法規出版

日和恭世(2016)「専門職としてのソーシャルワークの再検討」『別府大学紀要』第57号 57-66頁

水野篤夫・遠藤保子(2007)「ユースサービスの方法とユースワーカー養成のプログラム開発:ユースワーカー養成に関する研究会の議論から」『立命館人間科学研究』第14巻 85-98頁

水野篤夫(2009)「子ども・若者と社会教育:今求められるユースサービス」上杉孝實・小木美代子監修『未来を拓く子どもの社会教育』学文社 144-168頁

宮池明(2019)『若者のライフステージに応じた切れ目ない支援と組織体制の構築について～子ども・若者のライフステージに応じた奈良市の自治体における事例から～』放送大学2019年度卒業研究

宮崎隆志(2008)『ユースワーカー』の養成・研修に関する実践的研究』『マツダ財団研究報告書 Vol.20』

Müller, B. (2011): Professionalität. In: Thole, W. (Hrsg.): *Grundriss Soziale Arbeit*, 3., überarbeitete und erweiterte Aufl. VS Verlag für Sozialwissenschaften. S.955-974.

Schilling, J./ Klus, S.(2018): *Soziale Arbeit: Geschichte - Theorie - Profession*. (7. aktualisierte Aufl.) München: Ernst Reihardt Verlag.

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計44件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 20件）

1. 著者名 生田 周二	4. 巻 69
2. 論文標題 子ども・若者支援の新たなパラダイム 専門性の構築に向けて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 奈良教育大学紀要. 人文・社会科学 = Bulletin of Nara University of Education. Cultural and Social Science	6. 最初と最後の頁 193~212
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20636/00013391	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 生田周二	4. 巻 68
2. 論文標題 子ども・若者支援における対話の一考察	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 奈良教育大学教育学部紀要	6. 最初と最後の頁 203 - 211
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20636/00013289	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 生田周二・帆足哲哉	4. 巻 6
2. 論文標題 子ども・若者支援における「第三の領域」と「社会教育的支援」概念に関する研究 - 日本とドイツにおける議論を中心に -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 奈良教育大学次世代教員養成センター研究紀要	6. 最初と最後の頁 15-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20636/00013320	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 櫻井 裕子、櫻井 恵子、生田 周二	4. 巻 6
2. 論文標題 居場所「ねいらく」における不登校支援の実践報告	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 次世代教員養成センター研究紀要	6. 最初と最後の頁 233~237
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20636/00013348	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ueda, Mitsuaki and Tsutomi, Hiroshi	4. 巻 -
2. 論文標題 A Test of Hirschi's Reflected Control Theory in the Far East	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Oleson, J. C. and Costello, B. J. eds. Fifty Years of Causes of Delinquency	6. 最初と最後の頁 285-302
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 南出吉祥	4. 巻 9月号
2. 論文標題 カテゴリー化をめぐる功罪	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 教育	6. 最初と最後の頁 84～91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 南出吉祥	4. 巻 4月号
2. 論文標題 地域とともに歩んできた仕事工房ボボロ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 月刊社会教育	6. 最初と最後の頁 76～77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 南出吉祥	4. 巻 12月号
2. 論文標題 『若者支援』と“居場所と出番”	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 月刊社会教育	6. 最初と最後の頁 76～77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大串隆吉	4. 巻 760号
2. 論文標題 労働者教育の成り立ちと歩み	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 月刊社会教育	6. 最初と最後の頁 48 - 54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 津富宏 (訳)	4. 巻 18(2)
2. 論文標題 児童の商業的性的搾取と闘うための直接的行動戦略のデザインに関するガイドライン (試訳) (下)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国際関係・比較文化研究	6. 最初と最後の頁 61-87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 津富宏・両角達平 (訳)	4. 巻 18(2)
2. 論文標題 第二回欧州ユースワーク大会宣言ー新たな世界を創り出すー (翻訳)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国際関係・比較文化研究	6. 最初と最後の頁 89-99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 立柳聡	4. 巻 29
2. 論文標題 『現代文化と社会教育』の今日的示唆	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 明治大学社会教育主事課程室年報	6. 最初と最後の頁 20-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 生田周二	4. 巻 704
2. 論文標題 社会教育とユースワーク	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 月刊社会教育	6. 最初と最後の頁 16-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 生田周二	4. 巻 54
2. 論文標題 年報第61集『子ども・若者支援と社会教育』	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 社会教育学研究	6. 最初と最後の頁 140-142
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 生田周二	4. 巻 -
2. 論文標題 Q & A で知る！多様性理解と教職や学習に関する大きな枠組み	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 教師のための多様性理解	6. 最初と最後の頁 3-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 生田周二	4. 巻 -
2. 論文標題 第三の領域へのすすめ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 不登校の理解と対応ガイドブック 保護者編	6. 最初と最後の頁 49-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大串隆吉	4. 巻 54
2. 論文標題 若者支援専門職員の専門性調査－佐賀県における若者支援活動の場合（二次報告）・職親活動－	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 首都大学東京人文科学研究科『人文学報』	6. 最初と最後の頁 21-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 南出吉祥	4. 巻 35
2. 論文標題 若者支援の専門性と実践者の育ち	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 生活指導研究	6. 最初と最後の頁 21 - 28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 立柳聡	4. 巻 No.27
2. 論文標題 子ども支援専門職養成のためのアクティブ・ラーニング論－明治大学「現代の子どもと社会教育」講座、20年の教育実践知を踏まえて－	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 明治大学社会教育主事課程年報	6. 最初と最後の頁 17-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 宮崎隆志	4. 巻 870
2. 論文標題 自己形成の基盤をみんなでつくる：「つきさっぷプロジェクト」の経験から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 教育	6. 最初と最後の頁 79-86
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 櫻井 裕子、櫻井 恵子、生田 周二、中山 留美子、石川 元美、大谷 陽子	4. 巻 8
2. 論文標題 不登校の子どもを育てる保護者への ペアレント・トレーニングの実施効果 - 対面とオンラインのハイブリッド方式による実施報告 -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 次世代教員養成センター研究紀要 = Bulletin of Teacher Education Center for the Future Generation	6. 最初と最後の頁 157 ~ 160
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20636/00013538	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 櫻井 裕子、櫻井 恵子、生田 周二、石川 元美、大谷 陽子	4. 巻 7
2. 論文標題 居場所「ねいらく」における不登校支援の一環としての保護者支援の実践研究	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 次世代教員養成センター研究紀要 = Bulletin of Teacher Education Center for the Future Generation	6. 最初と最後の頁 221 ~ 224
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20636/00013436	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 櫻井裕子	4. 巻 64(12)
2. 論文標題 オンラインツールを使った不登校・ひきこもりの居場所支援への模索	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 月刊社会教育	6. 最初と最後の頁 56 - 57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 生田周二	4. 巻 21(8)
2. 論文標題 居場所づくりで大切にしたいこと	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 クレスコ	6. 最初と最後の頁 12-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 生田周二	4. 巻 65(11)
2. 論文標題 包摂型社会と社会教育：子ども・若者支援との関連において	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 月刊社会教育	6. 最初と最後の頁 8-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 生田周二	4. 巻 66(3)
2. 論文標題 子ども・若者支援のアプローチをめぐって 社会教育的アプローチへの視座	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 月刊社会教育	6. 最初と最後の頁 48-50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大串隆吉	4. 巻 348
2. 論文標題 ドイツにおける生産学校：生産により自己肯定感をとり戻すために 学校から社会へ 生産学校解説	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 所報協同の発見	6. 最初と最後の頁 7-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大串隆吉	4. 巻 65(11)
2. 論文標題 コロナ感染症と社会教育	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 月刊社会教育	6. 最初と最後の頁 3-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 津富宏	4. 巻 20(1)
2. 論文標題 「ユースワーク：欧州評議会・閣僚委員会により2017年5月31日に採択された勧告CM/Rec(2017)4及びその説明のための覚書」(翻訳)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国際関係・比較文化研究	6. 最初と最後の頁 171-196
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 津富宏	4. 巻 18
2. 論文標題 離脱について考える	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 更生保護学研究	6. 最初と最後の頁 60-68
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中田 周作、牧山 弘毅	4. 巻 20
2. 論文標題 保育士等キャリアアップ研修における受講者アンケートの考察	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中国学園紀要 = Journal of Chugokugakuen	6. 最初と最後の頁 141 ~ 150
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.24770/00001148	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 孫 冬梅, 石井山 竜平	4. 巻 70(1)
2. 論文標題 地域運営組織による学校と地域の関係形成についての考察 : 山形県川西町吉島地区「きらりよしじまネットワーク」に着目して	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東北大学大学院教育学研究科研究年報	6. 最初と最後の頁 25-40
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 立柳聡	4. 巻 65(12)
2. 論文標題 児童憲章を振り返る視座：子どもへの眼差しを変えよう	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 月刊社会教育	6. 最初と最後の頁 4-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 深作拓郎	4. 巻 11
2. 論文標題 書評 塚田由佳里著『地域のなかで子どもが育つ学童保育：ヘルシンキ・大阪の放課後』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 学童保育・日本学童保育学会紀要	6. 最初と最後の頁 68-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川野麻衣子	4. 巻 9
2. 論文標題 子ども・若者のための地域文化活動に従事する立場から青少年教育における「余暇・社会参加」を考える	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 青少年教育振興機構青少年教育研究センター紀要	6. 最初と最後の頁 3-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 南出吉祥	4. 巻 906
2. 論文標題 「子ども理解」を深めていくために：子どもたちが生きる社会空間と競争の構造	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 教育	6. 最初と最後の頁 55-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤田美佳	4. 巻 66(1)
2. 論文標題 地域教育協会との連携による「スタディ・サポート・サンデイ」の取り組み	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 月刊社会教育	6. 最初と最後の頁 37-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上大樹・川野麻衣子・深作拓郎	4. 巻 1
2. 論文標題 子ども支援の専門性と力量形成の社会教育的側面 子ども支援施設・団体調査報告	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 札幌学院大学学術機関リポジトリ	6. 最初と最後の頁 1-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中田 周作、上田 敏文、肥田 武、中坪 史典	4. 巻 19
2. 論文標題 放課後児童支援員の「見守る」とは何か? -フォーカス・グループ・インタビューのSCATによる分析-	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中国学園紀要 = Journal of Chugokugakuen	6. 最初と最後の頁 129 ~ 140
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24770/00001136	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 深作拓郎	4. 巻 64 (4)
2. 論文標題 社会教育と学校教育の協働をめぐって	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 月刊社会教育	6. 最初と最後の頁 37-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 深作拓郎	4. 巻 23
2. 論文標題 中高生世代の地域参加の促進に関する一考察～『こどものまちミニひろさき』の取り組みから（その2）～	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 弘前大学生涯学習教育研究センター年報	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 深作拓郎	4. 巻 22
2. 論文標題 子どもの主体的参画としての「こどものまち」実践の可能性 - 「こどものまちミニひろさき」4年間の取り組みから -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 弘前大学生涯学習教育研究センター年報	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 大村恵	4. 巻 5
2. 論文標題 社会教育主事・社会教育士養成における社会教育実習の意義 愛知教育大学における2020年度の実践から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 教育ガバナンス研究	6. 最初と最後の頁 1-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 櫻井裕子	4. 巻 29
2. 論文標題 不登校の子ども対象のオンライン居場所支援の特徴と課題の検討	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 奈良女子大学社会学論集	6. 最初と最後の頁 22-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計18件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 生田周二
2. 発表標題 鼎談「対話の困難に向き合う社会教育」
3. 学会等名 日本社会教育学会関西六月集会（関西大学）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 生田周二
2. 発表標題 『第三の領域』と『社会教育的支援』概念 ドイツにおける議論を中心に
3. 学会等名 日本社会教育学会2019年度66回研究大会（早稲田大学）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 井上大樹
2. 発表標題 地域文化・教育にかかわる支援の対象と『子ども支援』 子どもの『生きづらさ』からの検証
3. 学会等名 日本社会教育学会6月集会（東京大学）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 津富宏
2. 発表標題 休眠預金を考える とりわけ評価の視点から
3. 学会等名 第21回NPO学会(龍谷大学瀬田キャンパス)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tsutomi, Hiroshi
2. 発表標題 Commoning the Community through Job Support
3. 学会等名 International Conference Social Solidarity Economy and the Commons: ISCTE - Lisbon University Institute, Lisbon, Portugal (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 津富宏
2. 発表標題 新自由主義下の社会介入の評価
3. 学会等名 第20回日本評価学会全国大会(高知大学物部キャンパス)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川野麻衣子
2. 発表標題 子ども支援における「社会教育的支援」の実践と課題(4)「本研究の趣旨とねらい、そして子ども領域の研究計画案の検討」
3. 学会等名 日本社会教育学会六月集会(東京大学)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川野麻衣子
2. 発表標題 子ども・若者地域文化活動実践・研究の立場から(特別企画、社会教育法70年と社会教育研究の課題)
3. 学会等名 日本社会教育学会第66回研究大会(早稲田大学)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 生田周二
2. 発表標題 ラウンドテーブル：子ども支援における「社会教育的支援」の実践と課題（3）
3. 学会等名 日本社会教育学会2018年度六月集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 生田周二
2. 発表標題 鼎談「対話を生み出す場づくり 社会教育の新たなパラダイムを求めて」
3. 学会等名 日本社会教育学会2018年度関西六月集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 津富宏
2. 発表標題 静岡方式による就労支援 半福祉・半就労から脱福祉・脱就労へ
3. 学会等名 社会政策学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hiroshi Tsutomi 津富宏
2. 発表標題 Re-organizing community as mutual-aid entity: A case from Shizuoka
3. 学会等名 International Conference on Social Enterprise in Asia. 立命館大学茨木キャンパス
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大村恵
2. 発表標題 人格形成に視点を当て、教育的・集团的アプローチを探る
3. 学会等名 社会教育学会六月集会ラウンドテーブル
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 津富宏
2. 発表標題 若者の自立を問い直しつつ連携のあり方を探る
3. 学会等名 社会教育学会六月集会ラウンドテーブル
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 櫻井裕子
2. 発表標題 不登校・ひきこもり支援におけるオンライン居場所支援の可能性を探る
3. 学会等名 日本社会教育学会第67回研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 生田周二
2. 発表標題 支援の重層性をめぐる課題整理 子ども・若者支援、生涯学習支援に関わって
3. 学会等名 日本社会教育学会2021年度第68回研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 生田周二
2. 発表標題 生涯学習支援をめぐる「支援」とは
3. 学会等名 日本社会教育学会2021年度六月集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 井上大樹
2. 発表標題 拠点を持つ子ども支援の専門性と力量形成のモデル、その社会教育的側面
3. 学会等名 日本社会教育学会2021年度第68回研究大会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 社会文化学会編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 144
3. 書名 学生と市民のための社会文化研究ハンドブック	

1. 著者名 日本生活指導学会編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 高文研	5. 総ページ数 272
3. 書名 自立支援とは何だろう？	

1. 著者名 南出吉祥ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 「若者 / 支援」を読み解くブックガイド	5. 総ページ数 197
3. 書名 かもがわ出版	

1. 著者名 川野麻衣子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 萌文社	5. 総ページ数 132
3. 書名 ひと山まるごとプレイパーク 日常の緊張感から解放される場所	

1. 著者名 生田 周二	4. 発行年 2021年
2. 出版社 かもがわ出版	5. 総ページ数 216
3. 書名 子ども・若者支援のパラダイムデザイン “第三の領域” と専門性の構築に向けて	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>子ども・若者支援専門職養成研究所  <a href="https://ipty2014.wixsite.com/mysite">https://ipty2014.wixsite.com/mysite</a>          子ども・若者支援専門職養成研究所  <a href="https://www.facebook.com/ipty2014/">https://www.facebook.com/ipty2014/</a></p>
---

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	井上 大樹  (INOUE Hiroki)  (00638281)	札幌学院大学・人文学部・准教授    (30103)	
研究分担者	宮崎 隆志  (MIYAZAKI Takashi)  (10190761)	北海道大学・教育学研究院・教授    (10101)	
研究分担者	上野 景三  (UENO Keizo)  (30193824)	西九州大学・子ども学部・教授    (37201)	
研究分担者	石井山 竜平  (ISHIIYAMA Ryuhei)  (30304702)	東北大学・教育学研究科・准教授    (11301)	
研究分担者	帆足 哲哉  (HOASHI Tetsuya)  (30760152)	広島国際大学・健康スポーツ学部・講師    (35413)	
研究分担者	立柳 聡  (TACHIYANAGI Satoshi)  (40315669)	福島県立医科大学・看護学部・准教授    (21601)	
研究分担者	深作 拓郎  (HUKASAKU Takuro)  (40389804)	弘前大学・教育学部・講師    (11101)	
研究分担者	中田 周作  (NAKATA Shusaku)  (50336054)	中国学園大学・公私立大学の部局等・准教授(移行)    (35313)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	津富 宏 (TSUTOMI Hiroshi) (50347382)	静岡県立大学・国際関係学部・教授  (23803)	
研究分担者	川野 麻衣子 (KAWANO Maiko) (50626299)	奈良教育大学・次世代教員養成センター・研究部員  (14601)	
研究分担者	大串 隆吉 (OGUSHI Ryukichi) (70086932)	東京都立大学・人文科学研究科・客員教授  (22604)	
研究分担者	南出 吉祥 (MINAMIDE Kissho) (70593292)	岐阜大学・地域科学部・准教授  (13701)	
研究分担者	大村 恵 (OMURA Megumi) (80231207)	愛知教育大学・教育学部・教授  (13902)	
研究分担者	藤田 美佳 (FUJITA Mika) (90449364)	奈良教育大学・次世代教員養成センター・研究部員  (14601)	

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 日独対話のシンポジウム	開催年 2021年～2021年
-----------------------	--------------------

## 8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------